

論壇

FRBの影響を受ける日本

米国の中央銀行であるFRB（連邦準備制度理事会）の議長や幹部の発言に日本経済は大きな影響を受けている。イエレンFRB議長は、米国経済の回復に力強さが見えてきて、このまま順調な動きが続けば、政策金利であるフェデラルファンドレートの引き上げが可能になるという趣旨の発言をした。

日本と同じように、米国では超低金利の状態が続いていた。こう

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

世界経済の鍵握る米国

した異常な状態から早く脱却したいとFRBは考えていたはずだ。ただ、2008年のリーマン・ショックからの経済の回復が思わしくなく、必要以上に超金融緩和を続けざるをえない状態が続いた。その米国が政策金利を引き上げ

た。2008年のリーマン・ショックからの経済の回復が思わしくなく、必要以上に超金融緩和を続けざるをえない状態が続いた。その米国が政策金利を引き上げ

る方向に動く兆しが見えることは、日本経済にとって少なくとも二つの意味がある。ひとつは、米ドル高の方向に進む。先週のイエレン議長の発言を受けて、為替レートは円安に大きく動いた。その世界経済全体が景気回復の流れに乗るようであれば、その恩恵は日本にも及ぶというものだ。金利引

き上げは、米国の回復を意味する。世界最大規模の米国経済が成長するかどうかは、世界経済の先行きにとっても重要な鍵となる。

もうひとつのポイントは、為替レートへの影響である。米国の金利が上がれば、為替レートは円安

ドル高の方向に進む。先週のイエレン議長の発言を受けて、為替レートは円安に大きく動いた。その世界経済全体が景気回復の流れに乗るようであれば、その恩恵は日本にも及ぶというものだ。金利引

景気後退の流れ変える期待
残念ながら、世界経済の状況は厳しい。中国やブラジルなどの新興国では厳しい景気の状態が続いている。ブラジルや中国を指したBRICsという言葉には、もはや輝きはしない。新興国の停滞が、世界貿易の停滞につながり、資源価格の低迷も続いている。産油国などの資源国の経済も、資源安の影響で経済低迷が続く。こうした影響は、中東諸国、ロシア、ブラジル、アフリカ諸国など、広範囲に広がっている。

こうした時には、先進国の経済が世界経済を支えなくては行けない。残念ながら、日本も欧州も経済の勢いが弱い。どうしても米国経済への期待が大きくなる。株式市場も外国為替市場もそうした点をよく認識している。だから、今回のような米国の経済政策の動きの気配に、株価や為替レートが敏感に反応することになる。

日本の経済回復は米国次第というのも情けない話だが、この世界的な景気後退の流れを変えるのは米国以外に考えられない。11月の大統領選挙も近づいている。これから年末にかけての米国の政治と経済の動きからは目が離せない。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。